

令和6(2024)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(1/6)
(学校経営)

学校運営方針	本年度の努力目標
<p>高い品性、健やかな心身、豊かな教養と人間性、行動力を備えた、グローバル社会において、リーダーとしてたくましく生き抜くことができる志の高い人材を育成する。</p> <p>○中高一貫教育校の強みを活かし、魅力ある学校づくりを推進し、県南地区の中核的な進学校として「選ばれる学校」となる。</p> <p>○地域等と幅広く連携を図りながら、「Sanoグローバル構想」を全校体制で推進し、生徒、保護者、教員、地域等にとって、「幸せな学校」づくりを推進する。</p> <p>○令和8年度入学生からの高校での単位制導入に向け、佐高・佐附中の新たなブランドデザインであるポスト「Sanoグローバル構想」を構築する。</p>	<p>① 「Sanoグローバル構想」の組織的・計画的な実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高校を見通して、「探究力」及び「人間力」の育成を目指した教育活動を組織的・計画的に実践する。 ・「STEAM教育」の視点を導入し、文理の枠にとわれない教科横断的な学びを実現する。 ・地方自治体や大学、民間企業やNPOなど、外部団体との効果的な連携を図るとともに、卒業生や保護者の力を最大限に活用し、体験的・実践的に学ぶ機会を提供する。 ・生徒の自主的・自発的なチャレンジを伴走しながら支援する。
	<p>② 「教育DX(デジタルトランスフォーメーション)」の推進研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の「教育DX推進研究校」としてのメリットを最大限に活用し、授業改善および業務改善をさらに推進する。 ・生徒を主語にした「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現し、「自律的な学習者」を育てよう、教員の授業力向上(情報活用能力)をも含めてを図る。 ・情報モラルも含めた生徒の情報活用能力を育む。
	<p>③ 学校不適応などの生徒等への組織的な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団づくりに努め、生徒一人ひとりが自分らしさを生かしながら、協働して学びに向かえるよう支援する。 ・普通科の生徒観察や面談等により、学校不適応など課題のある生徒をい早く把握するとともに、情報共有に努め、組織的に対応する。 ・「唐場所カフェ」や中学の「生徒支援室」など、多様な生徒に寄り添った支援を充実させる。
	<p>④ キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野で活躍している社会人等の話を聞く機会を設けるなど、探究的な学習や特別活動等を通して、生徒が自らの生き方を選択できるよう必要な能力や態度を育てる。
	<p>⑤ 広報活動の持続的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新や報道機関への情報提供などの広報活動を組織的に実施し、本校の魅力を発信し続けることで、生徒の自己肯定感を高めるとともに、受験生から選ばれる学校となることを目指す。

〈各部・各学年〉(評価点)4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価)A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

	本年度の努力目標	重点項目	具体的方策	評価	担当部署	成果と課題
教務部	① 学校行事の円滑な運営	① PDCAサイクルの定着	① 次年度への引継ぎを確実にするために、各種行事に関するデータや資料の整理、反省等を各係毎にその都度進める。	3	B	<p>各種行事において特に支障無く運営できた。一方で前年度の反省が十分に反映されていない点が未だあるので、改めて引継ぎ等における伝達の仕組みについて整備を進めたい。</p> <p>年内に指導要録作成のマニュアルを整備することが出来ず、担任の先生方にはご不便をかけている。今年度、運用に関していくつかの改善意見も出ているので、見直しを含めて作成にあたりたい。</p> <p>天板張替えは滞りなく進んだ。DX事業の活用により、令和8年度のリニューアルにむけて学習環境の具体的な強化が進められている。一方で増加する機器類を含めて、その運営管理に関する整備が必要である。</p> <p>年度当初に係から、改めてHPの使用に関するマニュアルを提示してもらった。前年度と比較して更新数は伸びたが、部活動間で温度差が未だある。保護者や地域の関心も高いので、改善策を模索したい。</p> <p>利便性もさることながら、TeamsやFormsなどを用いることで多くの職員が省資源化に取り組んでいる。光熱費に関しては生徒の意識向上も必要かと思うので、その点の強化も図りたい。</p>
	② 統合型校務支援システムの効果的な運用	② 各種帳票の出力を行い、校務負担の軽減化を図る	② より活用しやすい環境整備を目指して、指導要録作成のマニュアルづくりを進める。	2		
	③ 校内施設設備の整備・活用	③ 教職員と生徒が過ごしやすい環境づくりに努める	③ 生徒の学習環境の増進を目指して、昨年度に続き、事務室との連携により机の天板張替えを進める。	3		
	④ ホームページ内容の充実	④ 部活動の迅速なホームページ上への掲載	④ 記事作成上の注意を併記したマニュアルを新たに提示することで、部活動を中心に更新増を目指す。	2		
	⑤ 消耗品の省資源化及び節約を図る	⑤ 紙の節約と文房具類のリユースに取り組む	⑤ 昨年度に引き続き、朝の連絡や職員会議等、伝達はTeams等を積極的に用いて、省資源化を促進させる	3		
進路指導部	① 豊かな教養と進取の気性に富み、真理を探究できる生徒の育成	① 生徒が、興味関心を高め、主体的に行動を起こせるように情報提供を行う	① オープンキャンパス参加の指導。	3	B	<p>新潟大のOCは希望者が集まらず、借り上げバスで進路主催で連れていくことはできなかったが、東北大のOCは中学生3年生からも希望者が集まり充実した。夕方の卒業生との交流会では、佐高出身の教授を含め16名の先輩方と懇談ができた。</p> <p>夏休み後期課外の午後に、大学4年生を中心に卒業生30名程来校、講演会及び交流会を行った。中学3年生も20名程度参加した。中高の行事として位置づけたい。運営に各クラスの進路係が携わった。来年度は高校1、2年生がより主体的に参加できるような工夫を含め、進路係に運営の大部分を任せたい。</p> <p>進路室前、横の廊下等の資料を整理をしたが、もう少し使いやすい状態にしたい。進路資料室も3月までには、より閲覧しやすいように整理したい。</p> <p>高校2年生は、1月~3月にかけて探究学習、進路学習の振り返りを含めシンカ宣言を作成する。3年生は、昨年度のシンカ宣言を大学の志望動機の作成につなげた。7月に提出したものをスタディーサプリ企画の朝日新聞社による添削サービスを利用し整えた。</p> <p>高校2年生に対して、1月のLHRで、進路研究、そして情報交換のグループワークをする。高校3年生はさらに深い内容で6月にグループワークを行った。8月以降の受験戦略につながった。</p> <p>①、②などで、中高が参加する進路行事を行えた。また、1月に高校3年生が参加してのチューター制による中学進路学習を行う。次年度はもう少し機会を増やしたい。</p> <p>第1回、第2回の志望校検討会はそれぞれの担当者を割り振ったことにより、内容が充実した。また、担任による丁寧な面談により、生徒たちはしっかりと考えた上での進路選択を行うことができた。</p> <p>今年度も、80名以上が総合・学校推薦型選抜を利用した。それに伴い、多くの先生に面接等の指導を依頼した。先生方には多く負担をお掛けしたが、入試の合否だけでなく、今後の人生の道しるべとなるような、声援に富んだご指導をいただいたケースもあり、ありがたかった。</p> <p>1、2、3年の保護者に対する進路講演会を行ったものの、その他、各学年の2者面談、3者面談以外には全体に対する情報提供は行えなかった。</p> <p>3月受験終了後に予定している。</p> <p>夏休みに各大学の個別試験(各教科)の分析を、先生方に行っていた。</p>
			② 卒業生による大学説明会。	4		
			③ 進路資料室の整備。	2		
			④ 探究学習とシンカ宣言への指導。	3		
	⑤ LHRの時間等を使ったグループ別進路研究。	3				
	⑥ 中高合同縦割り進路学習。	2				
	⑦ 面談の充実。(志望校検討会、入試結果検討会)(生徒と担任との信頼関係の構築)	4				
	⑧ 総合・学校推薦型選抜で受験する生徒への指導。	4				
	③ 健やかな精神と身体を持ち、自己の未来を拓ける生徒の育成(自立への支援)	③ 自立した学習者になれるような支援を行う。	⑨ 保護者への進路情報提供。	2		
			⑩ 卒業生による受験報告会。	3		
			⑪ 共通テスト・個別試験結果の分析と指導法の改善。	3		

令和6(2024)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(2/6)

(各部・各学年) (評価点)4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価)A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

本年度の努力目標		重点項目	具体的方策		評価点	総合評価	成果と課題	
学習指導部	① 「考える・教え合う・楽しい」授業の研究	① 指導研究	①	教科主任会⇄教科会の実施。	2	B	今年度より教科会が時間割に入り、一定の機能を果たしているが、授業研究にまでは踏み込めてはいないのではないかと。	
			②	一人一研究	2		各先生方の研究を共有をしようと試みた。次年度も引き続き行くと良い。	
			③	先進校視察。	3		視察の希望者が固定化されている傾向がみられる。次年度は多くの方が行けるような体制にしたい。	
			④	Find!アクティブラーナーの活用。	2		職員会議の際に視聴活用することを計画したが、時間の関係でむずかしく、5回の予定が現在2回の実施となっている。	
			⑤	教育DX指定をうけて学習環境を整備 情報交換・研修会	3		DX加速化推進事業による整備が進み、また県からの教育DX指定校として公開授業を開催できた。授業への活用拡大は今後の課題。	
	② 「一生役立つ」学び方の試行錯誤	③ 学習習慣の確立(量)	⑥	手帳の活用	3		高1、2年が手帳を使い、指導も様々行っている。まだまだ活用の仕方、仕掛け方には研究の余地が多い。	
			④	学習方法を学ばせる(質)	2		高1は作成はしたがあまり多くの効果は得られていない。次年度以降積み上げて行って、ブラッシュアップしていきたい。	
			⑤	学力格差が大きいことへの対応	3		夏季課外は希望者にした。質問対応の充実は今一つであった。	
			⑥ SG活動の体系化	⑨	マニュアル化の一層の推進。		3	今年度スケジュールを大きく変えた。今年度なりの最低限のマニュアル化はできた。
				⑩	指導力の向上=職員研修の実施。		3	教員研修を受けてきた内容の共有はある程度できた。
	⑦ 外部との連携	⑪		外部から指導を受ける。(中間発表に指導を受ける)	3		コメントはいただけたが、しっかりと指導を受けることができた班は多くはなかった。	
		⑫	外部に開く。(教養講座・哲学カフェ・課題研究の発表)	3	様々なものを開くことはできているが、もう少し開く範囲を拡大したい。			
		⑬	外部大会への発表。(マイプロジェクト・RING)	3	高2生徒は全員発表をすることになっている。			
	③ 答えのない学び=探究活動の充実	⑧ 学際的な発展	⑭	STEAM教育への広がり研究、文章を書く機会を多く持つ。	3		それなりに書く場面は用意できている。書く目的を伝えながら書かせたい。	
			⑨	進路活動とつなげる	3		それなりに書く場面は用意できている。書く目的を伝えながら書かせたい。	
			④ 人権教育	⑩	人権教育の充実		4	各学年ごとにしっかり時間をかけ、知り、考える時間がもてた。
	⑤ 異学年との学び	⑪		高2と中3の交流	1		学習指導部の活動が多岐に渡りすぎていて、今年度は断念した。	
		⑥ 国際理解	⑫ 学校間交流	⑬	交流イベントの実施		4	5校、2団体との交流を行った。多すぎて準備が行き届かなかった。振り返りもしっかりしたい。
	⑭			学校交流(マレーシア・タイ・インドネシア)	4		昨年度から準備することができた。選考ルールに課題があったため次年度改善したい。	
	⑦ 図書館メディア	⑮ すすきな図書館空間の創出	⑯	語学研修(NZ)	4		すてきな空間としての整備が進み、居場所としての利用も増えている。さらなる利便性の向上を目指し、開館時間の拡大を計画したい。	
⑰			居場所として、落ち着いた学びの場としての整備	4	導入初年度ということで、活用の仕方を模索した。今年度の検証を踏まえ、次年度どのように活用していくか検討したい。			
⑧ 「自ら学ぶ学び方」を身に付けた生徒の育成(中)	⑯ 家庭学習方法の指導	⑱	スタディサプリを活用した個に応じた学びの確立	3	学校研究課題2年目として、各教科取り組んだ。少しずつではあるが、定着しつつある。			
		⑲	すべての教科で一人一台パソコンやプロジェクター等を効果的に使った授業実践を行う。	3				
⑨ ICTの有効活用(中)	⑲ 一人一台パソコンやプロジェクター等のICT機器を使った授業研究	⑳		3				

令和6(2024)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(3/6)

(各部・各学年) (評価点)4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価)A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

本年度の努力目標		重点項目	具体的方策		評価点	結果評価	成果と課題
生徒指導部	① 自己指導能力の育成	① 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の育成	①	あいさつの励行。	3	B	・あいさつを返せない生徒が増えている傾向がある ・礼儀正しくあいさつを返す生徒にも、もう少し元気さやほつらつさがほしい
			②	時間厳守の意識向上。	3		・授業前準備や教室移動は習慣として身に付いている ・委員会や係活動等の集まりについても時間どおり集合できている
			③	遅刻削減。	3		・決まった生徒が遅刻する。対策が必要 ・「8:30から遅刻」と統一したらよいのでは
		② 自立に向けた指導・援助	④	自己の目標に向かい積極的に行動しようとする態度の育成。	3		・目標が具体的な生徒は行動がしっかりしていた
			⑤	望ましい行動選択や場面に応じた行動選択及び意思決定。	2		
			⑥	危険予測・危険回避意識の向上。	3		・ヘルメット着用率を高めたい
	② 交通安全意識の高揚	③ 交通ルール遵守と交通マナーの向上	⑦	他人を思いやれる心の育成。	2		
	③ 「心の教育」の推進	④ 豊かな人間性の育成	⑧	生徒の心情や家庭環境に配慮した指導の充実。	3		・生徒指導や各学年から出た情報に留意し指導した
	④ 教職員(生徒)の危機管理意識の高揚	⑤ 防犯意識の向上 危機管理マニュアル共通理解の徹底	⑨	貴重品の管理の徹底。	2		・高校生が体育館に私物を置くので場所を都活ごとに決めてほしい
			⑩	危機発生時の円滑な対応。	3		・連携が取れていた。ケガの対応は保健室・教務とうまくできた ・発見も対応も早期にできている
	⑤ 開発的教育相談	⑥ 積極的な教育相談の実践	⑪	教職員が生徒の情報を確認・共有できる体制を整え、学年・学校職員が、様々な場面で一人ひとりの生徒に関わっていく。	3		・学年では情報共有されているが知らなかった先生もいた。共有方法の統一をしたほうがいい ・早期対応はうまくいくケースが多い
	⑥ 予防的教育相談	⑦ 生徒の悩みや問題の早期発見・早期対応	⑫	Q-U検査等を有効に活用し、生徒の抱えている問題の早期発見、早期対応に努める。	3		・QU、いじめアンケートなど定期的対策はできていた ・検査をもとに係から特定生徒にアプローチしてもらうと担任は助かる
	⑦ 治療的教育相談	⑧ スクールカウンセラー(SC)及びスクールソーシャルワーカー(SSW)の効果的活用	⑬	担任・教育相談部・SC、SSWの連携を強化し、学校としてサポートできることを検討、実践する。	3		・外部との連携もあるが担任の負担が大きい。支援体制の充実が課題 ・SCIにつなげることができている ・特別支援教育的支援が増えることが予想されSSWや特別支援学校からの派遣等も前向きに検討したい
			⑭	スクールカウンセラーによる、職員への講話等を実践する。(事例検討を含む)	2		
特別活動部	① 中高合同行事の活動内容の連携と、指導内容の一貫性を図るようになる	① 中高の連携体制を強化し、行事(旭城祭など)を企画運営する ② 学校祭クラス企画の充実をはかる ③ 各種委員会の自主的な活動を促進する	①	中高生徒会役員を中心に、互いに意見交換をし、中高で一貫性のある活動ができる場面や時間を調整する。	3	B	中高合同行事に関しては連携を図れる部分もあった。職員も含め、中高間での情報共有を密にすることでより一貫性のある活動につながると考えられる。ただし、中学生徒会役員にうまく仕事を振り分けられないこともあった。中高生徒会役員・担当職員での打ち合わせ時間が待てるとうい。
			②	学校祭のクラス企画、学年企画の充実を図る。	4		各企画も充実し、生徒会本部と実行委員会を中心に活気あふれる学校祭となった。係担当職員が生徒と今年度以上に連携を取り進捗させていくことでさらに活性化を図れる。中学生も高校生の企画に触れ楽しめていた。中学は総学の体育館発表をなくしたが、特に支障はなかった。
			③	自主的な活動を促し、中高でともに活動できるよう内容を検討していく。	3		中高での委員会活動実施には至っていない。まず中高での委員会を統一すること、仕事内容の検討、活動日を設け、活動することが必要である。検討に向け、生徒会で動いていきたい。顧問についても適正な配置となるよう検討が必要である。また、自分達から発信し、学校のために考える委員会であるとうい。
	② 部活動の短時間で効率的な活動の充実を努め、参加の促進を図り、自主的かつ意欲的な活動を目指す	④ 中高の連携体制を構築し、生涯を見据えた部活動の継続を推進する ⑤ 各部の活動時間の厳守	④	部員を中心に据え、顧問と連携をとり活動内容等を作成・活動し、高校生が中学生を指導する場を設けることを目指す。	3		部員の主体的活動は行えている部が多い。中高合同での活動は、特に運動部について成長過程に差があるため、検討を重ねていく必要を感じる。互いに学びあえる機会を設けることで成長につながると考えられ、部活動の活性化をめざして検討会を持つことも考えられる。
			⑤	各HR・各部活動での指導の徹底。	3		内規として定めているが、指導内容や大会前などでずれ込んでしまう時期があるため、機会を設け、活動時間については周知していきたい。また、完全下校時刻を過ぎても帰宅していない中学生がいるため、併せて指導していく。
	③ 他者と協働して学級・HR活動を行うことでより良い人間関係の構築と所属意識の高まりを目指す	⑥ 部活動の活動場所の調整と各部による自主的で衛生的な部室等管理を指導する ⑦ LHRや学活の時間での学級活動の充実をはかる	⑥	共同利用施設を管理することの重要性を説明するとともに、定期的に点検を行う。	3		部員も含め、物品管理や施設などの意識が持てるように各部で折に触れ指導をしていく。中学には部室がなく、男子は外で荷物管理、着替えなどを行っており、心配面がある。部の物品と共用物品の置き場等を明確にする必要性も感じる。
			⑦	HRでの役割を自覚させ、学級活動の中でそれに沿った職責を果たせるよう取り組ませる。	3		役割を自覚し、職責を果たす生徒は多く見受けられる。しかし、特に高校で委員会により活動量が偏る傾向が見られるため、中高で連携し、継続的な活動になるよう再編していく。

令和6(2024)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(4/6)

(各部・各学年) (評価点) 4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価) A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

本年度の努力目標		重点項目	具体的方策	評価点	結果評価	成果と課題
健康指導部	① 学校管理下における事故、災害の防止に努める	① 学校行事における安全管理を徹底する	① 事前健康診断、個別指導の徹底、事故防止に努める。 学校保健委員会を年2回開催する。	4	A	養護教諭と学級担任の連携を密にして事前の健康診断、健康相談の充実をはかり、事故防止に取り組んだ。マラソン大会や運動会前は、行事に向けて気を付けることを体育科と連携して発信できたので大変良かった。現場の安全管理面では事務の動きが早くとても助かった。
		② 防災意識を高める	② 防火防災、土砂洪水災害避難訓練および防災講話の実施。	4		より実践的な避難訓練とするために、防火扉を閉めた避難も経験できるようにするとよいのではないかと。
		③ 関係機関との連携を密にする	③ 学校医・中・高の共通理解を図り、連携を進める。 マラソン大会等、事前打ち合わせを密にする。	4		マラソン・ウォーキング大会では警察、関係諸機関との連絡ができ、生徒の安全に配慮した大会運営ができた。中学では体育的行事ではない開催も意見として出ている。
			④ 救命救急隊員による心肺蘇生法講習会の実施。(中学生も参加)	3		教職員、部活動代表生徒約50名が参加し、充実した講習会となった。中高の生徒が一次救命処置を経験し、いざという時に人命を救助するための術を身に付けておくことが重要である。中学生の参加が多くなったが、もう少し教員の参加も促したい。
	② 自己の健康管理能力の育成する	④ 望ましい生活習慣の確立と健康の保持増進の意識を高める	⑤ 保護者への啓発。(資料の提供) 保健だよりを発行する 授業中の怪我予防対策に努める	3		紙の節約と言われながらも保健だよりを発行した。季節や行事に沿った便りで分かりやすい内容であった。保健だよりに関しては、SNSよりは効果的であると思う。
			⑥ 保健学習。(健康に関する知識や技術の習得)	3		保健室来室時、個別での健康指導を実施することができた。メンタルケアを求めるケースもあり、今後の課題である。
		⑤ 感染症対策	⑦ 感染拡大防止対策の徹底(手洗い、うがい、教室の換気)を実施する。	4		昼休みの放送で随時呼びかけている。秋から冬にかけて寒さが増し、乾燥が進んで行く中で、多くの生徒がマスクの着用、手洗い、換気、一人一人が気を付けて過ごしている。
		⑤ 健康診断結果の適切な事後指導と自己の運動能力の把握と体力の向上をはかる	⑧ 各種検診結果の適切な事後指導時の協力体制の整備と短縮を図る。	4		検診結果の事後指導は充分に行うことができ、協力体制も円滑に機能、充実した取り組みができた。
		⑥ 余暇時間を活用して体力の増進を図る	⑨ 新体力テストの結果に基づき、自己の体力を高める。	3		教員の働き方改革もあり、部活動の活動日数や活動量が減少傾向にある。休み、多くの生徒が体育館・グラウンドでの活動していて大変良いことだが、道具の片付けが不十分であったり・破損しても報告がなかったりなどの生徒指導の面が課題である。
			⑩ 性教育講座を実施する。	4		今年度も助産師の講話を実施。充実した内容で継続していきたい。例年、高校では7限目だけなので、時間が足りない。もう少し時間確保したいところである。
	③ 生命の尊重と性に関する諸問題の解決能力を育成する	⑦ 正しい性知識の習得をさせる	⑪ 保健学習において性に関する視聴覚教材を積極的に利用する。	3		理解を深めるために、広い意味で性について進めたい。ハラスメント、犯罪だけでなく、家庭・人権・精神面にも触れていきたい。調べ学習では、視聴覚教材を利用するグループが増えた。
			⑫ 安全衛生委員会を定期的に開催する。 生活習慣病予防の指導を充実させる。	3		どのようにしたら、教職員が健康について考えたり、受診の動機につながりやすいのか次年度の課題。人間ドック等の精密検査受診の職専免が取りやすい環境にはなっていない。
	④ 職員の健康の保持増進を促すとともに適切な健康管理につとめる	⑧ 健康管理医との連携を十分に行う (年12回定期巡視、全職員対象)	⑬ 生活習慣病予防の指導を充実させる。	3		インフルエンザ感染、新型コロナウイルスに感染する生徒・職員が多かった。学級閉鎖が複数出てしまったが、その後の感染拡大もなく良い判断だったと思う。高3年については大学受験に備え各クラスに空気清浄機を設置して感染対策を強化している。
			⑭ 担当顧問による声かけ、放送での呼びかけを行う。	4		衛生面からトイレ清掃はスラックスの生徒も着替えさせたい。今後も指導と啓発が必要である。教員に指示されず自発的に清掃する姿が見られた。
⑤ 清掃時の服装の徹底(特に女子)	⑨ スカートではなく、体育着等ズボンでの清掃	⑮ 安易に簡易清掃とせず、具体的な内容を指示する。 特にトイレ、階段、廊下をきれいにする。	4	水曜日が清掃なしになったため、日程の関係で清掃のない日が続くことが多々出てきた。教室だけでも、朝、簡単清掃があるとよい。		
⑥ 日々の清掃活動を充実する	⑩ 清掃開始時刻と終了時刻を守る (放送を入れ、音楽を流す)	⑯ 月1回の安全点検の実施とその結果をまとめ、積極的に清掃用具の補充と問題箇所等の改善につとめる。 特にゴミステーション当番、モップ交換の充実。	4	事務室の協力もあり、安全点検後の処理が早く問題箇所等の改善が早期に解消できていく。また、清掃用具の補充、整頓も円滑に進めることができた。モップ交換もうまくいった。		
⑦ 委員会活動の充実	⑪ 委員会を定期的に開催する。(中学生は、月1回清掃時間中に実施。)清掃時に音楽を流し活動の促進を図る	⑰ 保護者会等の学校を会場とした会合の際にクラス懇談を可能なかぎり実施する。	3	コロナ禍前と同様に行うことができた。PTA総会も昨年引き続き体育館にて行うことができた。		
渉外部	① 学校と家庭、地域との連携の強化	② PTA会報を活用し、学校行事や取り組みを保護者に発信する	⑱ 中高一貫校のPTA組織としてのより良いあり方の支援していく。	4	各支部会を合同形式で旭城ホールにて実施した。今後も本校にとつてのPTA活動のあり方を検討していきたい。	
		③ 同窓会、地域、諸団体との良好な関係を維持していく。	⑳ 役員の任期終了に伴う新体制づくりの準備を行う。	4	役員改選については役員同士の話し合いで円滑に進めていく。	
	② 学校と地域、関係団体とのあり方	④ 引き続きコロナ禍であるため、大変な面もあるが、出来ることを模索しながら、地域との連携をより充実させる。	㉑ 地域との連携をより充実させる。	3	関係団体と連携し、諸活動を行うことができた。	

令和6(2024)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(5/6)

(各部・各学年) (評価点) 4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価) A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

学年	本年度の努力目標	重点項目	具体的方策		評価点	結果と課題
			評価点	結果と課題		
中学1年	① 将来を見据え、ともに学び合うことができる生徒	① 6年間の学習習慣の基礎を構築し、積極的な学びの土台を育成する。	① 「授業と生徒指導は両輪」という考えの下、よりよい授業を展開し、教師と生徒がともに学び高め合う態度を育成する。	3	B	基本的な生活習慣の定着を図るために、学年集会、授業、朝学活等で指導した。一定の効果があったと思う。 授業において、主体的・対話的な授業を心がけて実施できた。授業評価アンケートでも生徒の理解度や満足度は感じ取れた。 総合的な学習の時間の充実を図るために、学年スタッフの協力の下、計画的、効果的に実施することができた。その結果、生徒は大変意欲的に活動に取り組んだ。探究活動の基礎を定着できたと思う。特別活動でも振り返りを行い、それぞれを意味あるものにする事ができた。 「伝統文化人に聞く」や「ソーシャルチェンジ講話」などを通し、多くの人々から話を聞くことができた。学級活動の時間の確保については改善の必要がある。 年度初めの仲間作りから、宿泊学習等の学年行事、合唱コンクール等の学校行事を通し、生徒相互の人間関係の構築ができた。また、総合ではクラスの枠を超えたグルーピングで様々な生徒同士の関わりを意図的に作ることで、様々な視点からの意見を受け入れる素地を作ることができた。 多くの時数は確保できなかったが、意味のあるものになった。次年度は時間を確保して継続的に実施したい。 学級学年の現状に応じて扱う教材の順序を変えるなど工夫して実施することで、一定の効果上げることができた。横で連携して授業を実施し、掲示物を工夫するなどして身についた道徳意識を高めることができた。担任との面談に加えて主任面談を実施し、学年の生徒全員の生徒理解に努めた。 学年保護者会を通して本校の指導方針を周知、理解を促した。生徒指導主事や学習指導主任からの説明、資料に加えてさらに学年の実態を知らせることで保護者が理解しやすかったと思う。その結果、多くの保護者が協力的であり、理解を示している。 あいさつ、返事、ルールや時間を守ること等、年度の最初から徹底した指導を行ってきた。基本的な生活習慣の充実を意識した指導を次年度も引き続き行いたい。
			② 「主体的・対話的で深い学び」を意識し、思考力・判断力・表現力の向上を図るとともに個に応じた指導を意識する。	3		
			③ 生徒の興味・関心を高めながら、特別活動や総合的な学習等の充実を図る。	4		
			④ キャリア教育の充実を図り、将来を見据えた学びの基礎を固める。	3		
	② 他と協働し、互いを尊重しながらよりよい集団を形成することができる生徒	② 6年間の学校生活を見据え、居がいのある学年、学級を形成する。	⑤ さまざまな活動を通し相互理解を深めるとともに人権意識の向上を図る。	3		
			⑥ ソーシャルスキルトレーニングを用い、場に応じた行動を意識させる。	2		
			⑦ 道徳科の授業の実践を通して心の成長と個性の伸長を図るとともに、教育相談を充実し、生徒理解を深める。	3		
	③ 決まりを守り、自己管理をきちんとできる生徒	③ 自ら基本的な生活習慣の向上に努め、けじめのある学校生活を送る。	⑧ 学校の指導方針をことあるごとに保護者に周知し、学校と保護者が同一歩調で指導できるよう促す。	3		
			⑨ あいさつ、返事、清掃活動などあたりまえのことをあたりまえにできるようにする。	3		
中学2年	① 将来を見据え、ともに学び合うことができる生徒	① 学級活動や総合的な学習の時間、特別活動等を中心とした学年経営、学級経営の充実を図る。 ② 一人一人の良さに教師・生徒、相互に気づき、互いに認め合い、尊重できるような雰囲気醸成する。	① 総合的な学習の時間（課題研究や体験活動）を通し、生徒同士のつながりや、さまざまな人々との関わり合いの機会を設けるように心がける。	3	B	コーポレートアクセスや、華道体験等総合的な学習の時間の協働的な学びをととして成長することができた。 道徳科の授業の実践をととして中学生としての基本的な考え方が定着できた。 学業指導を行うことで、規範意識が醸成された。しかし、生徒によっては課題の提出の期限を守るなどの基本的な部分が守れない生徒が一定数出てしまった。 長期休業中にスタディサプリの動画を視聴させるなどして職業観を育成した。学級活動の時間には十分な時間をとれなかった。 昼食時の廊下での指導等、時間を守ることを意識させるよう心がけた。大部分の生徒が基本的な生活習慣を守る意識を高めることができた。 本校の生徒指導の方針等について保護者の理解を得ることに努めた。保護者会で伝達することですこしずつ理解してもらいつつある。
			② 道徳科の授業の実践を通して、心の成長と個性の伸長を図る。	3		
			③ 毎時間の授業の中で、基本的な生活習慣の育成を図りながら、学習習慣の定着を意識させる。	3		
	② 他と協働し、互いを尊重しながらよりよい集団を形成することができる生徒	③ 「学習と生徒指導は両輪」の考えの下、よりよい授業を展開し、教師と生徒がともに学び合う態度を育成する。 ④ 将来の進路を意識し、働くことの意義を考えさせながら、職業について深く探究させる。 ⑤ 基本的な生活習慣の確立。	④ 進路について考える機会を学級活動等の機会に設け、将来についてより深く考えさせる。	3		
			⑤ あいさつ、返事、清掃等あたりまえのことができるようにする。	3		
			⑥ 開発的な指導を心がけ、家庭との連絡を密にする。	3		
③ きまりを守り、自己管理をきちんとできる生徒	⑥ 規範意識を高める。	⑥	3			
		① 将来を見据え、ともに学び合うことができる生徒	① 学級活動や総合的な学習の時間、特別活動等を中心とした学年経営、学級経営の充実を図る。 ② 一人一人の良さに教師・生徒、相互に気づき、互いに認め合い、尊重できるような雰囲気醸成する。	① 総合的な学習の時間（課題研究や講話等）を通し、生徒同士のつながりや、さまざまな人々との関わり合いの機会を設けるように心がける。	4	
				② ソーシャルスキルトレーニングを用い、場に応じた行動の実践力を育む。	2	
③ 道徳科の授業の実践を通して心の成長と個性の伸長を図る。	3					
② 他と協働し、互いを尊重しながらよりよい集団を形成することができる生徒	③ 「学習と生徒指導は両輪」の考えの下、よりよい授業を展開し、教師と生徒がともに学び合う態度を育成する。 ④ 将来の進路を意識し、働くことの意義を考えさせながら、職業について深く探究させる。	④ 毎時間の授業の中で、基本的な生活習慣の育成を図りながら、学習習慣の定着を意識させる。	3	B	各教科担任が教科の特性を踏まえつつ授業を実施できた。大部分の生徒は基本的な生活習慣、学習習慣を身につけることができた。 学活やチューター制中高間活動、三者面談等を通して、進学への意識を高めることができた。 大部分の生徒はあたりまえのことができるようになった。 教員間の連携、家庭との連携を密にして、チームで開発的な指導を心がけた。必要に応じて、外部機関と連携をしながら生徒指導を進めることができた	
		⑤ 進路について考える機会を学級活動等の機会に設け、将来についてより深く考えさせる。	3			
		⑥ あいさつ、返事、清掃等あたりまえのことができるようにする。	3			
		⑦ 開発的な指導を心がけ、家庭との連絡を密にする。	4			
③ きまりを守り、自己管理をきちんとできる生徒	⑤ 基本的な生活習慣の確立。 ⑥ 規範意識を高める。	⑥	3			
		⑦	4			

令和6(2024)年度 佐野高等学校・附属中学校 学校自己評価表(6/6)

(各部・各学年) (評価点)4=よくできた 3=おおむねできた 2=あまりできなかった 1=できなかった (総合評価)A=4~3.5 B=3.4~2.5 C=2.4~1.5 D=1.4以下

本年度の努力目標		重点項目	具体的方策	評価点	総合評価	成果と課題
高校1年	① 佐高生として望ましい基本的な生活習慣を確立する	① 学習意欲を高める生活習慣を確立させる	① 高校生らしい服装や生活態度を心掛けさせる	3	B	学年として統一した指導ができた。学習意欲においては、「自分が社会にどう貢献できるのか」という切り口で今何をすべきかを考えさせたい。
	② 相互の関係を大切にして互いに切磋琢磨し、明るく活気に溢れ、感性豊かな人間形成に努める	② 互いに人格を尊重しあい、心身ともに健康な学校生活を送れるようにする	② 教科外活動、部活動、学校行事等への積極的な参加を促す	3		旭城大運動会や旭城祭等の学校行事に対し、生徒が主体的に参加できていた。また、国際交流やボランティア等への参加も見られた。余力のある生徒へは、イベント参加の声掛けもできた。部活動に関しては、兼部している生徒が多いため、どれも中途半端な活動にならないよう注意が必要である。
	③ 進路目標を明確にし、学力の向上に努める	③ 自己理解を深め、将来の自分について考えさせる	③ LHRで進路学習を進めるとともに、生徒を観察し面談を積極的に実施する	4		外部講師による進路講演会や大学説明会、夢ナビ講義動画を視聴して生徒同士で情報交換をするなど、様々な進路学習の機会を持たせた。文理選択の際は、大学受験科目や配点まで調べさせた。まだまだ進路に関する意識が十分でない生徒もいるので、様々な機会をとらえて考えさせていきたい。
		④ 自学自習の習慣を定着させる	④ 手帳を活用し、自己管理に向けた指導を行う	3		フォーサイト手帳を活用し、学習のPDCAサイクルを回すよう指導した。また、定期試験の記録や振り返りを記入させることで活用を促した。今後は、生徒自身で自ら手帳を活用できるような仕掛けを考えたい。
高校2年	① 自らの進路について深く考える	① 自らの進路について、主体的に情報収集し、深く具体的に考えさせる	① 進路学習を継続して行い、オープンキャンパスや大学説明会等への参加を促す	4	B	外部講師による講演会等を複数回行い、生徒の進路に対する意識づけを行った。(講演会：オープンキャンパスの意義、保護者会時の進路講演会、修学旅行後の進路講演会、受験に向けた目標の立て方等)
	② 自学自習力を確立する	② 主体的・意欲的に、粘り強く授業に取り組みせ、日ごろから計画的に継続して家庭学習に取り組ませる。	② 落ち着いた態度で集中して授業に取り組ませる	2		講演会等を開き、生徒の意識向上に努めたが、受験生にはなり切れていない。手帳などを通じて継続して学習の意識づけを行っていく。
		③ 自己分析させ、各々に合った学習に取り組むことを意識させる	③ 自己分析させ、各々に合った学習に取り組むことを意識させる	3		駿台のハイレベル模試を実施するなど、生徒に応じたメニューを準備できた。一方で、進路意識の醸成が十分でない生徒もおり、模試などを通じた教員からのアクションが今後必要になるとと思われる。
	③ 規範意識を向上する	③ 高校生らしい服装、言葉遣いを心掛けさせ、周囲を思いやる行動を意識させる。	④ 集団生活を行う上で、周囲を思いやり、ルールの遵守を徹底させる。	1		生徒指導関係における学年の状況はあまり芳しいものではなかった。生徒指導上の問題を未然に防ぐため、複数回学年集会を開くなど対策を行った。
高校3年	① 中高一貫校の最高学年としての節度ある態度を育て、大人になることへの自覚を高めさせる。	① 後輩の模範となるような日頃の生活態度に気を配らせる	① 社会人として必要な「ルール・マナー」を意識させ、日々の授業、学校行事等すべてに意欲的に取り組ませる。	4	A	多くの生徒が、挨拶や人の話を聞く姿勢等、社会で必要とされるマナーを身に付けることができた。報告・連絡・相談に関しては、今年度進路に向けて行動する中で、大きく成長した部分だと思われる。また学校行事では、最高学年として自覚を持ち、意欲的に取り組む姿が見られた。
	② 自律した学習者となる。	② 学ぶ目的を意識し、自学自習に取り組ませる	② PDCAサイクルを回す力を身に付けさせる。生徒間で学び合う環境づくりをする。	3		上位者課外や放課後の時間、授業時間など様々な場面で教えあう雰囲気が見られた。隙間時間を利用し、自ら学習を進める生徒も多かった。一方で、早めに進路を決めていく生徒が3割強おり、全体のモチベーションの維持が難しかった。
	③ シンカ宣言をもとにキャリアデザインを描き、その実現を目指す	④ 面接指導を充実させ個々の希望を十分に把握する	③ 進路指導部との連携を密にし、進路情報の提供と場の提供を適切に行う。自らのキャリアデザインを意識させ、最終的に本人が進路選択できるよう支援する。	4		複数回面談を重ねる中で、生徒たちは自分の進路によく向き合い、進路実現に向けて行動することができた。進路指導部とも、しっかりと情報交換を行いながら指導を進めることができた。一方で、推薦入試受験生の中には、なかなか行動に移せない生徒もいた。

学校関係者評価結果および今後の改善方策等 令和7年2月14日(金)実施

<p>○Sanoグローバル課題研究成果発表会においての生徒の発表は素晴らしいものであったが、内容によっては下級生に引き継がなくてはならないものもあった。単年度で完結する研究が望ましいと思うが、研究を引き継いだ場合、その学年はどのような成果をあげることになるのか。【PTA代表者】</p> <p>○様々な教育活動において生徒たちに必要な知識・技能を身に付けさせてくれているのはもちろんであるが、周囲が気持ちよく過ごせるような心遣いや困っている人にすすんで手を差し伸べる思いやりといった「人間力」を育ててくれていると感じている親として大変ありがたく思っている。【PTA代表者】</p> <p>○学校行事や部活動の報告についてのHPの更新をもっと頻繁にしてほしい。校外で服装面で「高校生らしくない学生」が一部見受けられることもあり、多くの生徒が頑張っていたり、容儀を正して生活していたりするの、学校の情報発信や評判等の意味でも改善をする必要がある。【PTA代表者】</p> <p>○先生方は多忙のなか、従来からの業務のほかに新たな取り組みを積極的に導入するなど大変なことは理解している。各部の努力目標に対して一定の成果が出ているのであれば自信をもって高評価をつけてもよいのではないかと。評価にメリハリをつける意味でも必要なことである。【学校運営協議会委員】</p>	<p>○実際に行動したかたちとなったものがある一方で、テーマが大きすぎて単年度では完結できないものもあった。テーマを引き継いだ際は、先行研究を明示するなど研究手法についての指導も継続していく。</p> <p>○校外で人助けをした旨の感謝の電話をいただくことも多く、喜ばしい限りである。校内でも同級生はもちろん、高校生が中学生を面倒を見ている姿もあり中高一貫校だからその良さがある。</p> <p>○容儀指導を回数を増やして行うなど啓発に努めているが、「第3の制服」や現在の校則は生徒主体で決定したものであるため、生徒会を巻き込みながら指導の徹底と規範意識の醸成をはかりたい。</p> <p>○昨年度より広報委員による行事のHPの更新を行っているが、部活動の更新についても同様に生徒に活動を紹介する記事を書かせて、更新するなどの改善を加えたい。</p>
---	---